

第98回コンクール課題 (テーマ=読書)

幼 年 (えんぴつ)

こ	び	と
し	ち	に
も	り	の
な	か	

小 三 年 (えんぴつ)

ゴ	ール	ま	で
一	生	け	ん
歩	い	た	カ
ゆ	だ	ん	し
う	さ	ぎ	に
			勝
			つ
			た
			よ

小 一 年 (えんぴつ)

え	本	を
よ	む	の
じ	よ	う
か	あ	さ
		ん
		ね

小 四 年 (ペン)

勇	気	を	出	し	て
お	父	さ	ん	を	救
ピ	ノ	キ	オ	は	
願	い	が	か	な	い
人	間	に	な	り	ま
					し
					た

小 二 年 (えんぴつ)

は	た	ら	き	も	の	で
心	の	や	さ	し	い	
シ	ン	デ	レ	ラ		
王	子	さ	ま	と		
お	ど	り	ま	す		

小 五 年 (ペン)

い	つ	の	間	に	か
主	人	公	と	い	っ
考	え	行	動	し	て
こ	れ	こ	そ	読	書
楽	し	さ	で	す	

小 六 年 (ペン)

学	校	の	図	書	室	で
ビ	ク	ト	ル	リ	ユ	ゴ
「	あ	あ	無	情	」	を
人	を	信	じ	る	こ	と
貴	さ	を	感	じ	た	

中 一 年 楷書 (ペン)

自	分	を	犠	牲	に	し	て
貧	し	い	人	の	た	め	に
最	後	ま	で	つ	く	し	た
王	子	と	つ	ば	め	の	物
感	動	の	涙	が	あ	ふ	れ
							た

中 二・三 年 行書 (ペン)

自	分	を	犠	牲	に	し	て
貧	し	い	人	の	た	め	に
最	後	ま	で	つ	く	し	た
王	子	と	つ	ば	め	の	物
感	動	の	涙	が	あ	ふ	れ
							た

※「ペン」は、つけペン、デスクペン、ボールペンのいずれかを使用。

※幼年から小三までは上一段あけて書いて下さい。句読点は省略します。

半切四分の一に書くⅡ (19)

締切り 七月二十四日 (必着)



神谷 葵水先生書

◎本誌に条幅(半切)の課題が正式に設置されたのは、平成十一年七月のことです。その前の約八年間は、半切への足がかりとして半切四分の一のサイズ(約六八cm×十七、五cm)で条幅の基礎を学んでまいりました。

◎このコーナーでは、元愛知教育大学名誉教授・神谷葵水先生の当時のお手本をもとに、改めて条幅の基礎を学びます。平成二十六年にも一年間学びましたので、今回はパートⅡになります。

◎条幅は苦手という方、大きい作品に気後れしている方は、この機会にぜひ、条幅の草稿作りのつもりで気軽に取り組んでみましょう。

〔読み〕古松千年寿

〔大意〕「千年も生きる松のように長くあれと祝う」といった意味をもつおめでたい言葉。

〔解説〕

・用紙に五文字をバランスよく収めることが大切です。行の中心、字間、天地のあき等に注意しましょう。紙を折る、下敷の罫を利用する等の方法もあります。

・お手本をよくみると、各字に大小の違いがあることがわかります。潤渇も考えてみましょう。その方が動きやリズムが出て表現が豊かになります。

・できる方は、書体や崩し方を変換してオリジナルな作品に挑戦して下さい。その際、字典でしっかり調べることが肝要です。

・落款(署名・印)も作品の一部です。丁寧に収めましょう。印のない方は□を赤ペン又は朱墨で書いて下さい。

〔作品の出し方〕

▼毛筆部Ⅱ条幅半切四分の一(約六八cm×十七、五cm)に書いて下さい。

▼硬筆部ⅡB5版(二五七mm×一八二mm)以下の紙に課題手本のような枠線を引いて下さい。用具は自由ですが、細い線は相応しくありません。(フェルトペン・筆ペン可)

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績(硬筆の場合は硬筆規定の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

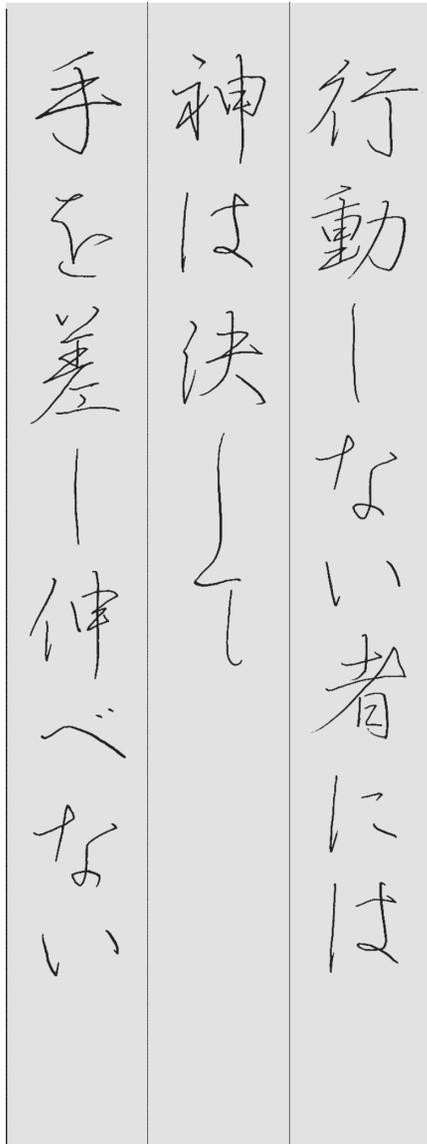
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。



おくむら のぶ ゆき 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

▼教範・書範⇨行書
▼師範⇨楷書

◆8月課題予告(行草または草書)
義務心のない自由は
本当の自由ではない
夏目漱石

★行動：(書体⇨行書)
ソフォクレス(前四九七頃〜四〇五頃)
古代ギリシャの劇作家
「天は自ら助くるものを助く」「心を
起こそうと思えばまず身を起こせ」な
どとも言うように、自分の意志で行動
を起こさない者には神も助けの手を差
し伸べてはくれません。
熟慮も必要ですが、一歩踏み出す勇
気を持つことが大切な時もあります。

◆8月課題予告(行書)
生きる上で
最大の障害は
期待を持つ事

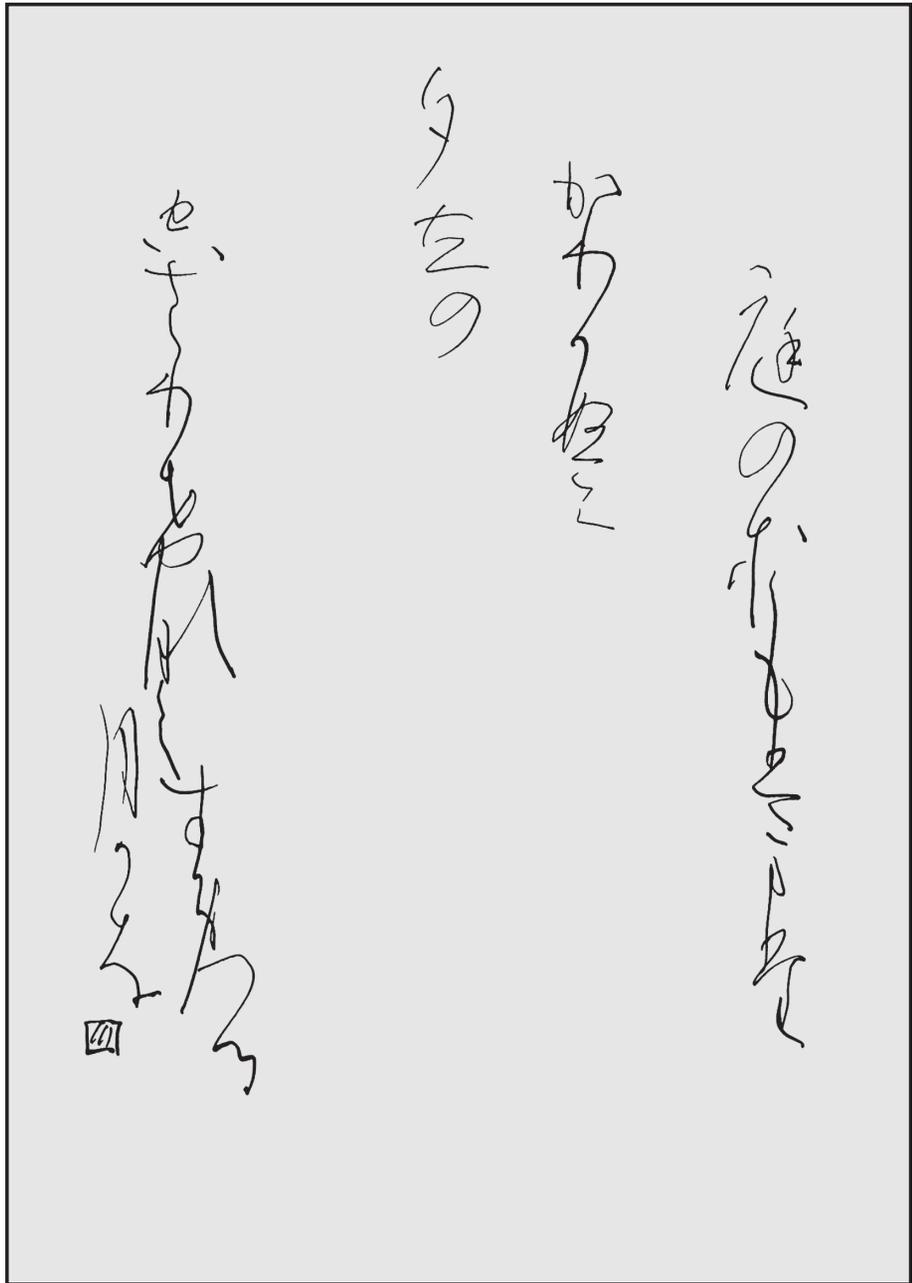
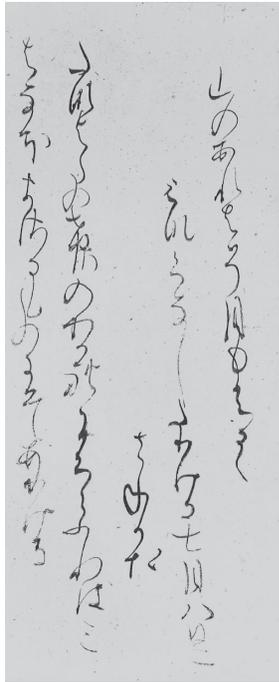
★重い：(書体⇨楷書)
高橋陸郎(一九三七〜)
詩人・歌人・俳人
ここでの「重い」とは自分にこだわ
るということです。日本屈指の俳人松
尾芭蕉は、そういう「重い」がひとし
お強かったからこそ「軽み」を大事に
しました。思いもよらぬ遠くへと連れ
て行かれるために、あえて自分自身を
不安定な状態に置いたと考えられます。

締切り 七月二十四日(必着)

築瀬舟香書

〔古筆参考〕

香紙切こうしぎれ



山のあれば昔月もか可く久る、
 こ那なく久な奈したり多ける利七月八日に
 さ年ね可かた
 た多な那ばた多の希け佐さの可わか禮れ尔にく久ら久ぶ久れば三み
 は者な奈ま本さ佐る尔もの利に利ぞ利あり利ける

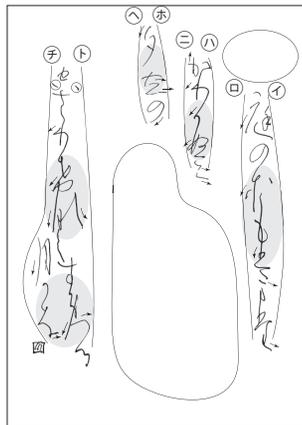
庭於の離面万はまだ可か怒わか二か可ぬ奈に可夕立奈の
 空利さり希げ那なく那澄免める可月奈かな

〔歌意〕庭おの面もはまだ乾いいていないの
 に、夕立を降らせたことはうそのよう
 な空に、さりげない様子で澄んだ月が
 出ているよ。

〔出典〕新古今和歌集

(新潮日本古典集成)

〔解説〕



①と②、③と④、⑤と⑥、⑦と⑧、
 ⑨と⑩、⑪と⑫、⑬と⑭、⑮と⑯、
 それぞれ
 呼応。

- ・ 〳 の方向大切。
- ・ 粗密の動き大切。
- ・ 行のふくらみ大切。
- ・ 〇 余白が線を生かす。

◆8月課題予告

ふるさとは散るもみち葉に埋もれて
 軒のしのぶに秋風ぞ吹く

締切り 7月24日(必着)

自由課題

- ◆ 今月は、文章も自由といたします。
- ◆ 皆さんのアイディアを生かして自由に創作して下さい。
- ◆ バラエティに富んだ、個性豊かな暑中見舞い状をお待ちしています。

暑中お見舞い申し上げます
新型コロナウイルスに全国民で立ち向かい、やっと収束が見えホッと
しています。まずは互いの無事に感謝して猛暑を乗り切りましょう。
令和二年盛夏

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

暑中お見舞い申し上げます
新型コロナウイルスに全国民で立ち向かい、やっと収束が見えホッと
います。まずは互いの無事に感謝
し、猛暑を乗り切りましょう。
令和二年盛夏

横書き課題

お 尾 ごう 翠 ごう 光 書
郷 翠 光

風鈴は夏の景物だが、最近はその涼しげな振り売りも見かけない。

神奈川県茅ヶ崎市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 7月24日(必着)

賦
斲
琯
反
樸
抵

賦
斲
琯
反
樸
抵

反 賦
樸 斲
抵 琯

準初段から師範まで

奥村暢之臨

〔出典〕孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕虞世南（558～638）
 〔読み〕賦を（薄くし）琯を斲りて樸に反し、（壁を）抵ちて（金を蔵し）

夏 奇
雲 峰
多 多

新入から1級まで（楷書）

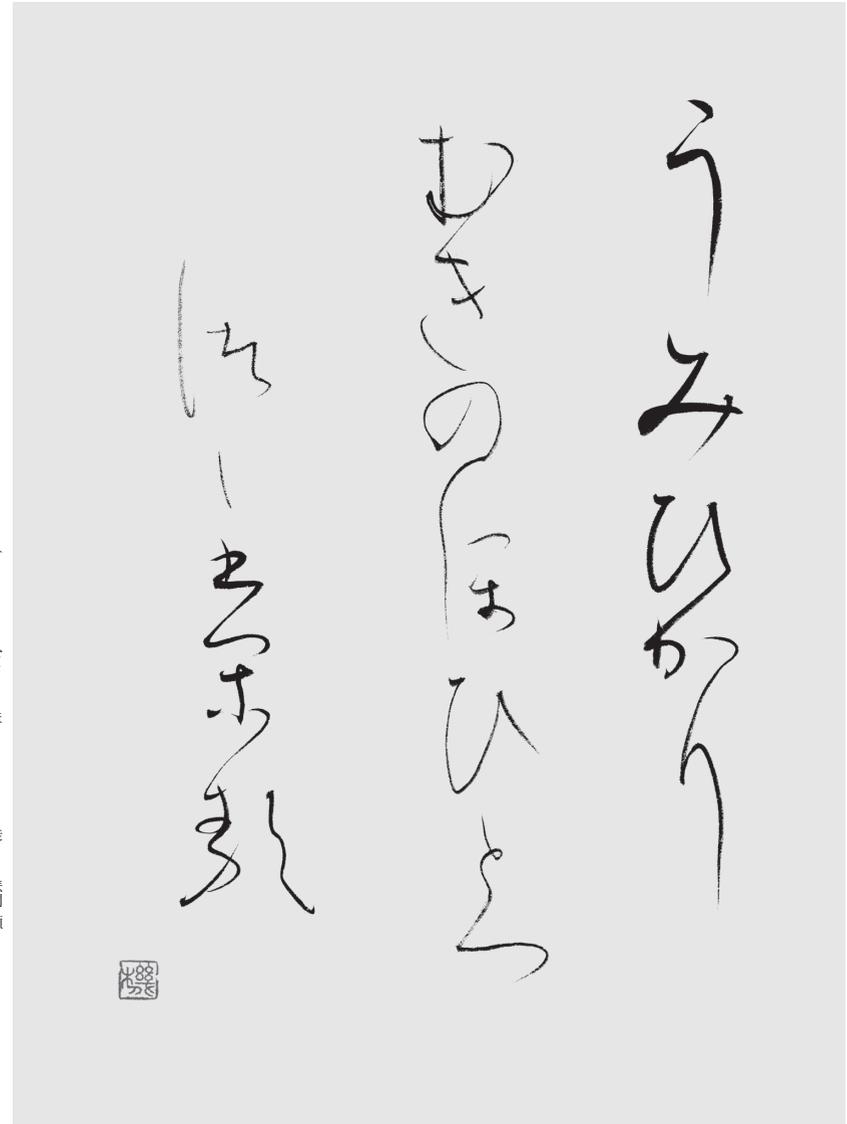
須田一葉書

〔読み〕夏雲奇峰多し
 〔大意〕夏の雲が雄大な峰のように聳えている。

一般部毛筆かな課題

締切り 7月24日(必着)

新入から1級まで

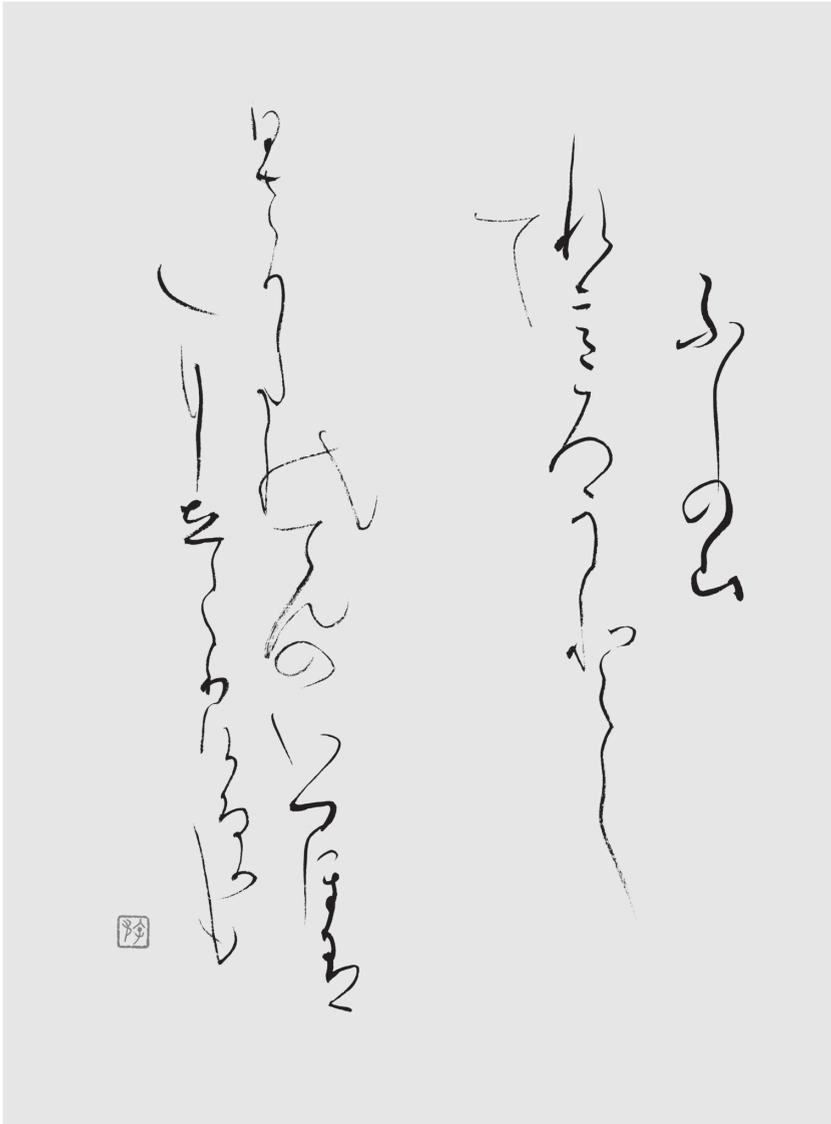


浅井機山先生書

〔出典〕 水野淡生

〔句意〕 近景に麦の穂の光を置き、遠景に海の光を配している。光で統一し、明るく、さわやかである。色彩感ゆたかな句。

準初段から師範まで



■両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

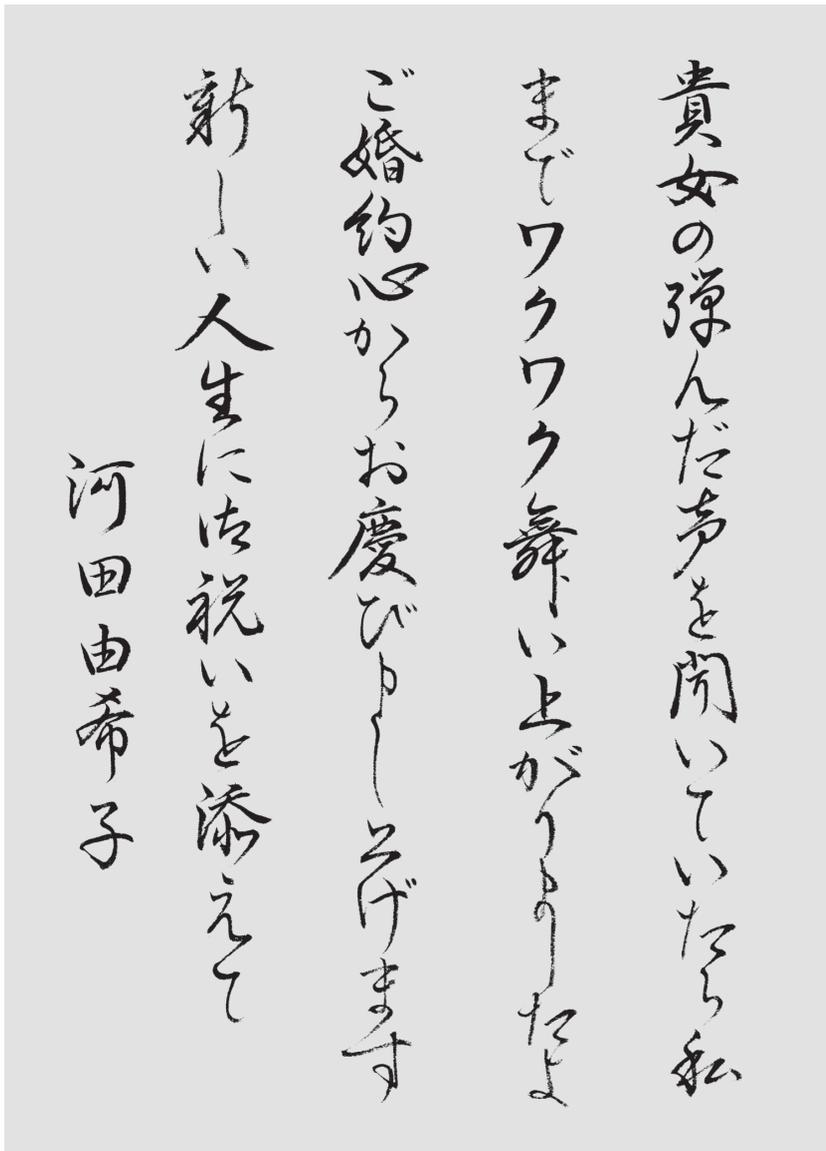
〔出典〕 北原白秋

〔歌意〕 富士山は玲瓏と麗しく輝きながら、大空の一方に聳え立っていることだ。

不尽の山れいとうとしてひさかたの
天の一方に立てりけるかも

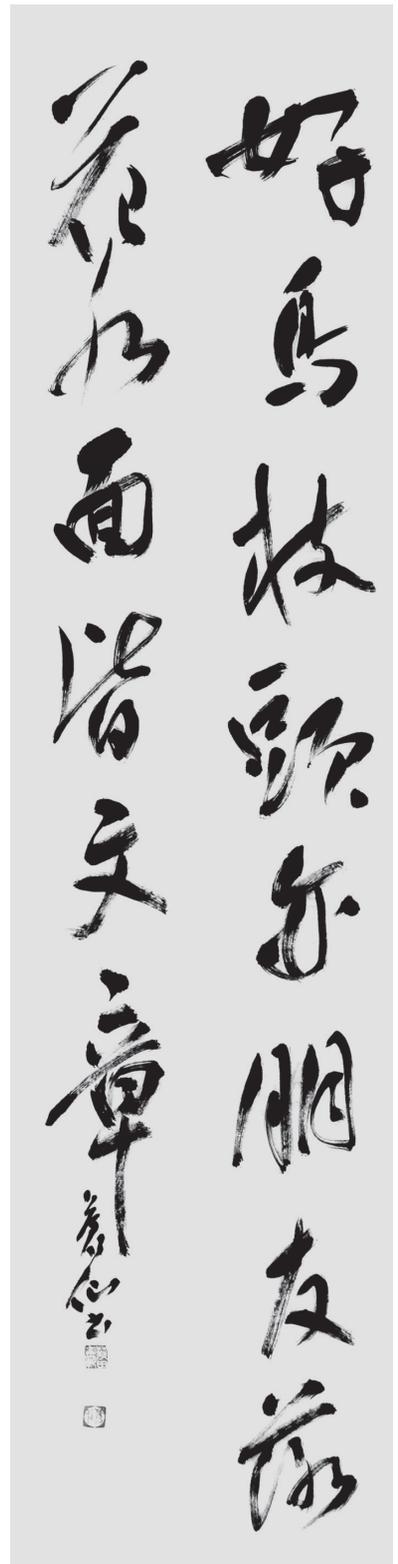
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

伊藤梅香 書



締切り 七月二十四日 (必着) 半切 (一三六 cm × 三五 cm)

荻田蒼仙 書

好鳥枝頭亦朋友
落花水面皆文章
朱文公

〔大意〕枝の上であそんで鳴いている鳥もまた友人であり、池の水面に散る花は皆文章である。

初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔条幅解説〕

疎密・太細等にプラス、素早く書くところと、ゆったり呼吸長く書くところ……この変化を意識して楽しんで書いてみて下さい。一字の中にも遅速の変化を！

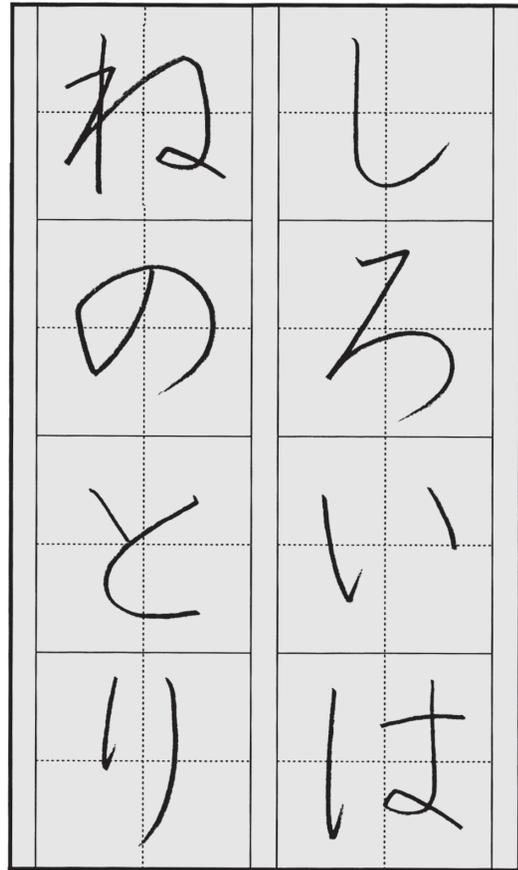
貴女の弾んだ声を聞いていたら私
までワクワク舞い上がりましたよ
ご婚約心からお慶び申し上げます
新しい人生に御祝いを添えて
(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

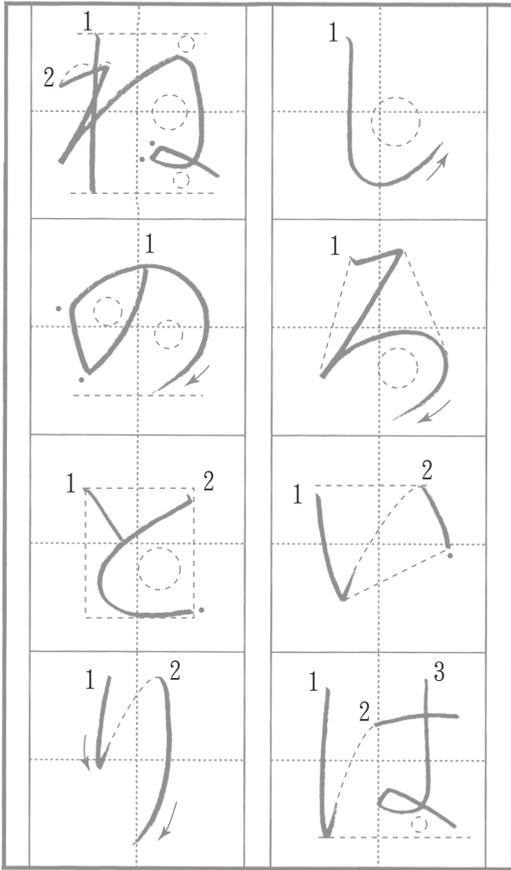
- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

よ
う
年



★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかきこ)

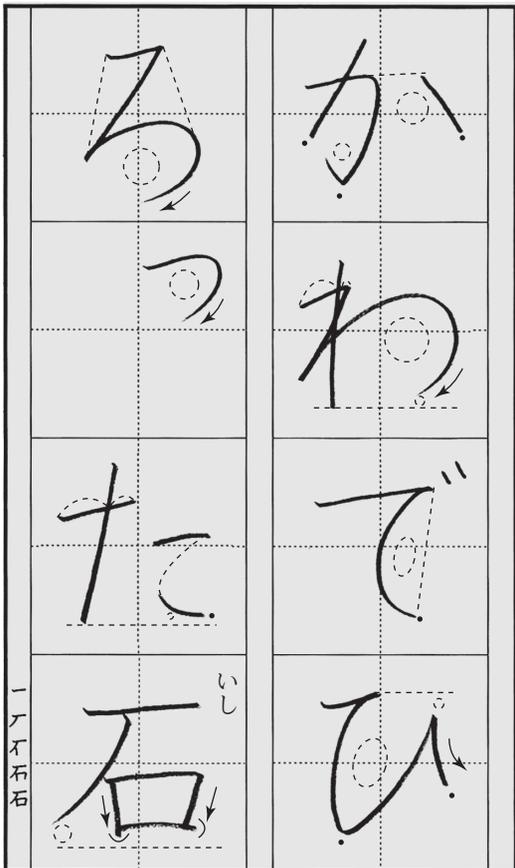
小
一
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入1級

準初段以上



幼年〜小三年まで
三宅容玉書

小二年

を	七	子
作	夕	ど
つ	か	も
た	ざ	会
よ	り	で

準初段以上

※七夕^{たなばた}単語としてこのように読みます。

新入〜1級

小三年

い	屋	駅
物	さ	前
を	ん	の
し	で	古
た	買	本

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入〜1級

〈ようぐ〉自由(黒色にかきこ)

で	子 ^こ
七 ^{一七}	ど
夕 ^{ノクタ}	も
を	会 ^{カイ}

買 ^か	古 ^{ふる}
い	本 ^{ホン}
物 ^{もの}	屋 ^や
を	で

〈用具〉自由(黒色に限る)

か	父 <small>ちち</small>
好 <small>す</small>	は
和	和 <small>ワ</small>
た	食 <small>シヨク</small>

ノハフ父
ニキキ和和和
ヘヘ今今食食

新入1級

特	つ	父
に	た	は
好	和	魚
き	食	を
だ	か	使

小四年

準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

読 <small>よむ</small>	分
知 <small>チ</small>	厚 <small>あつ</small>
識 <small>シキ</small>	辞 <small>ジ</small>
増 <small>ふ</small>	書 <small>シヨ</small>

言言言言読読
ノハフ分
一厂厩厩厚厚
ニキ舌舌辞辞
一ニ筆筆書書

解説(よく見て習いましょう)

識	を	分
か	読	厚
増	ん	い
え	で	辞
た	知	書

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈用具 自由 (黒色に限る)〉

ミツ 密	ジ 自
ギ 技	ドウ 動
ジュツ 術	シャ 車
キョウ 興	セイ 精

解説 (よく見て習いましょう)

味	密	自
が	技	動
わ	術	車
い	に	の
た	興	精

小六年

(全員)

実	が	注
況	生	目
さ	中	の
れ	継	競
る	で	技

中二・三年

(行書)

射	ト	暴
に	の	れ
大	予	る
苦	防	べ
戦	注	ツ

中一年

(行書)

▼小三年以下の課題 おお さわ ほう せん 書
大 澤 芳 仙 書

か	七 <small>なな</small>	川 <small>かわ</small>	大 <small>おお</small>	雨 <small>あめ</small>
か	色 <small>いろ</small>	の	き	上 <small>あ</small>
り	の	上 <small>うえ</small>	な	が
ま	に	に		り
す	じ			に
	が			は

◎お手本はえんぴつ使用



- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
 - 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
 - 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
 - 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
 - 一、成績は評価により毎月変わります。
 - 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



しめきり 7月24日（必着）

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 き じま せい げつ 書
木 島 静 月 書

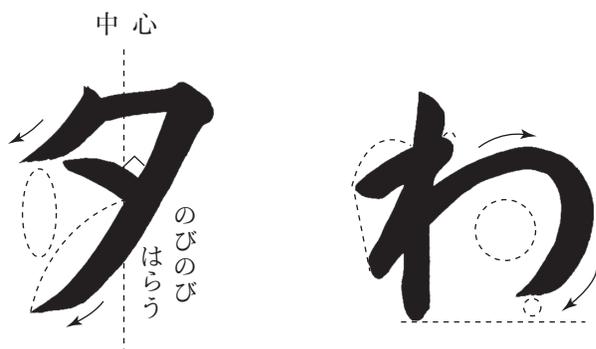
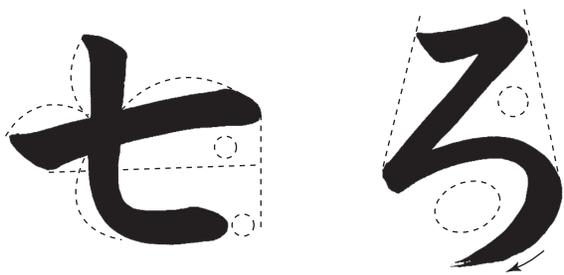
生 <small>せい</small>	規 <small>き</small>	時 <small>じ</small>	自 <small>じ</small>	夏 <small>なつ</small>
活 <small>かつ</small>	則 <small>そく</small>	間 <small>かん</small>	分 <small>ぶん</small>	休 <small>やす</small>
を	正 <small>ただ</small>	割 <small>わり</small>	で	み
実 <small>じつ</small>	し	表 <small>ひょう</small>	作 <small>つく</small>	は
行 <small>こう</small>	い	で	つ	
す			た	
る				

◎お手本はつけペン使用





幼年〜小二年
酒井智仔書





小三〜小五年

水野碧友書

中
三
中 実
繼 況

小六〜中二・三年

玉樹小華書

車 自
動

小六

射 実 繼

動 車 防

中
一
注 予
射 防

※行書は線の連なりを大切に!